

2020年4月8日

2020年度（第7回）大会シンポジウム開催概要（案）

1. 開催日時：2020年10月23日（金） 10：30～18：50
2. 会場：東京農業大学厚木キャンパス（神奈川県厚木市船子1737）
2202教室（第2講義棟2階）
3. 主催団体：日本農業労災学会・東京農業大学総研研究会3研究部会
（労災対策研究部会・就農者推進教育研究部会・農業協同組合研究部会）
4. 後援団体：JA 連合組織、JA 単協など
5. 第7回シンポジウムのテーマ

「農業者・農協等関係団体の連携強化による
農業労働安全・労災補償対策の実践－GAPを中心に－」

6. 開催趣旨・ねらい

年間300件を超える農作業による死亡事故の撲滅は農家・関係者の悲願である。しかし、農業生産者、国、都道府県、市町村、農業団体の懸命の農作業事故防止対策の取り組みによっても、なかなか事故が減らないのが実態である。確かに、他産業に比較して一人親方で組織的な事故防止対策の実践が難しいこと、高齢農家の増大、しかも危険を伴う環境の下での多様な作業の実践という農業特有の条件が、事故防止対策の実施を難しくしている。

そのため、事故防止のための具体的・効果的な対策、法的な枠組みを作ることができず、行政・農協の取り組みも十分とはいえない。本学会では昨年度のシンポジウムで、GAP導入の3つの目的の1つである「安全な労働環境の整備」を如何に実現して農作業事故を防止するかが、高齢化と企業化が並進している農業現場における重要な課題であると考え、GAPと農業労働安全の取り組みを組織的・戦略的に実践できる方法について検討した。今年度は、さらに前年度のシンポジウムの成果を踏まえて、GAPも一つの方法として含む有効性が高い農業者・農協等関係者の連携強化による農業労働安全・労災補償対策の実践の実践方法について検討を進めたいと考えている。

7. プログラム

- 1) 受付開始 10:00～
 - 2) 主催者挨拶： 学会会長・門間 敏幸（東京農業大学 名誉教授） 10:30～10:35
 - 3) 開催校挨拶： 10:35～10:40
 - 4) 座長解題： 緒方 大造（日本農業新聞 論説委員）
平野 繁（東京農業大学 准教授） 10:40～10:50
 - 5) 基調報告
- 第1報告 農業分野における農業者・関係者参加型の労働災害防止の方法
－GAPを中心に－ 10:50～11:20
門間 敏幸（日本農業労災学会 会長）
- 第2報告 グローバル GAP の団体認証取得によるブロックリーのブランド化と

労働安全対策について	11:20～11:50
菅野 史拓 (岩手県宮古農業改良普及センター)	
<休憩・昼食>	11:50～12:50
第3報告 女性農業者との農業機械開発と安全対策	12:50～13:20
野口 貴弘 (井関農機株式会社 販売企画推進部)	
第4報告 JA たじま「コウノトリ育むお米」のグローバルGAPの取り組みについて	
ーブランド化、労働安全対策を含むー	13:20～13:50
山下 正明 (兵庫県 JA たじま 常務理事)	
第5報告 農業労働安全拡充・労災補償対策のための社労士による参加型取り組み	13:50～14:20
中村 雅和 (いのしし社会保険労務士事務所 所長)	
6) コメント	14:20～15:00
コメンター1 安江 紘幸 (農研機構 東北農業研究センター 主任研究員)	
コメンター2 武田 敏幸 (JA 全農 耕種総合対策部 GAP 推進課 課長)	
コメンター3 木山 恭子 (社会保険労務士法人たんぼぼ会 所長)	
コメンター4 宮永 均 (JA はだの 専務理事)	
<休憩>	15:00～15:20
7) 全体討論	15:20～16:30
8) 座長総括	16:30～16:40
9) 閉会の挨拶	16:40～16:45
10) 個別報告 (希望者がある場合)	16:50～17:20
11) 交流会 (レストランけやき)	17:20～18:50
(個別報告希望者がいない場合の交流会)	16:50～18:20)

(注) この開催概要(案)における当日のスケジュールや開催教室等につきましては、今後、変更もありますのでご了承ください。

以 上